

§ 写真部入部推進紙 §

久下スポ

発行：川越東高校写真部OB有志
 発行所：川越東高校写真部
 〒350-0011
 埼玉県川越市久下戸6060
 電話 049-235-4811
 ファクス 049-235-1130
 第三種郵便物不認可
 文部科学省黙認

川越東高校生徒会・評議委員会開催迫る

写真部への審判が下る前に、OBが言いたいことだけの事

今月半ばにも開催される、川越東高校生徒会による評議委員会(以下、評議委)。同生徒会における本年度予算や事業計画を策定する重要な会議であるが、その席上では本紙がかねてより報じてきた写真部の存続問題を取り上げられることは必至の情勢である。そこで今号では、写真部を廃部にするこの意味、ひいては文化部をこれ以上衰退させることの悪影響について論じていきたい。評議委員諸氏をはじめ、一般生徒諸君にもこの問題を再認識していただく。

一、運動部人気は本物か？

この春、川越東高校新入生の八割以上が運動部への入部を希望したという。野球にサッカー、バスケットボールにバレーボール……年若い諸君が身体を使った活動をしたというのには当然といえば当然のことだが、すこし考えてみてほしい。「あえて部活に入らない」という選択肢も認められている現在、本当にこれだけの人間が運動部に入りたがっているのだろうか？ 本紙としては、その真意を疑わざるを得

ない。中学校を卒業したばかりの新入生のこと。多くの公立中学校が貧弱な文化環境しか用意しないなか、彼らは自動的に運動部を選びされてきた。また語弊はあるが、「中学校の文化部は、女子や特別の事情がある人が入るもの」という固定観念を持つてきたのも事実だろう。つまり、そんな彼らが世間体を気にしながら積み上げたのがこの「八割」という数字なのではないか。

右も左も分からない状態で、「文化部は恥ずかしいし、記入用紙を配られたらどの部活にも入らないとは書きづらい……」と思いつつ運動部の名前を記入した者がかなりの割合で含まれる数字であるに違いない。

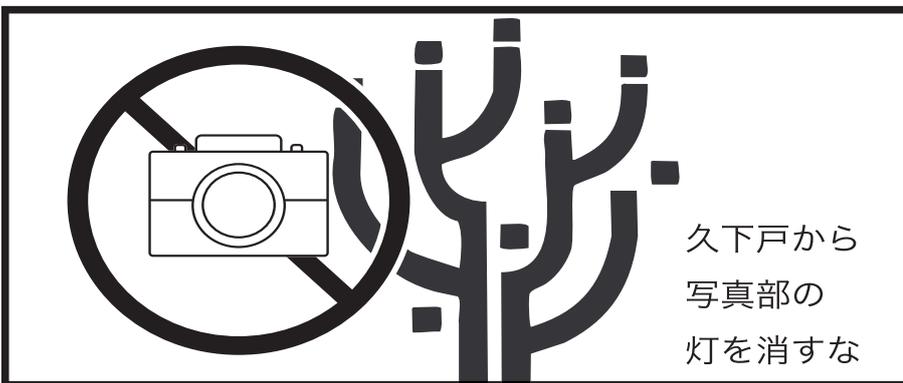
川越東高校は、創立二〇周年を迎える新進の進学校である。経営陣と教員諸氏の努力により進学実績はここ数年で長足の進歩を遂げ、最近では東京大学への進学者も輩出した。このように、知的にすぐれた学校に入學してくる生徒が文化的活動に興味のないはずがな

二、文化祭を「文化の祭り」にするのは誰か？

立地条件や他校との日程の兼ね合いは当然あるが、昨今の翔鷹祭への動員数は漸減傾向にあると言わざるを得ない。その理由について関係者はさまざまな検証を加えているだろうが、本紙は明らかに文化部衰退の結果であると断ずる。いちOBとして翔鷹祭を訪れば自明のことだが、校内のどこでも喫茶店や輪投げ、焼きそばなどの屋台が幅をきかせており、純粹に文化活動を発表・展示しているブースはほんのわずかである。どの教室を見ても似たようなジュースや景品を出し、部屋を暗くしてはトランプなどに耽つている。これは極言すれば文化とはほど遠い、生徒会関係者のみが苦勞するためのイベントになっているのである。

体育祭が体育のための祭りなら、文化祭は文化のための祭りである。文化祭とは数字として結果を表すことのできない各種の文化部が、日頃の成果を発表するためのイベントではなかったのか。文化部員はそのために作品を仕上げ、それを他校生徒やOB、およびいのである。学校経営上、運動部の活躍の方が社会的にアピールしやすいという事情があるにせよ、安易に文化部を切り捨てることは生徒の文化的活動へのきつかけを喪失させ、運動部から落伍した者の行き場をも奪うことになる。川越東高校が標榜してきた「文武両道」の精神はどこに行つたのか。今こそ評議員諸氏の再考を願いたい。

進学希望者に発表する―これにより、川越東高校の「文武両道」思想は完成するのではないのか。進学希望者および父兄は運動部だけに期待しているのではない。むしろ、より深い文化活動にこそ惹かれるのではないか。もちろん現行の文化部に奮起が求められる面もあるが、文化部を優遇しない限りこの状態は変化しない。文化祭を文化の祭りにするのは文化部員である。



久下戸から
写真部の
灯を消すな

三、文化部の選択肢を減らすな

仕方なく運動部を選ばねばならない学校と、能動的に文化部を選ぶことのできる学校。どちらが優れているかについては論をまたないが、本紙はこの

たび埼玉県内でもとくに著名な進学校における文化部の設置状況について調査した(表)。各校のホームページからの抜粋であるので実際の部員数など

県立 U和第一女子高	県立 U和高	私立 J北埼玉高	県立 K越高	私立 川越東高校	私立 K智学園高等部
音楽部 マンドリン部 吹奏楽部 能楽部 書道部 演劇部 囲碁将棋部 華道部 化学部 地学部 生物部 調理部 美術部 琴部 茶道部 ESS 歴史研究部 写真部 文芸部 長唄部 コンピュータ無線部 物理同好会 日本舞踊同好会 かるた同好会 漫画同好会 JRC 同好会 フォークソング同好会	文芸部 演劇部 美術部 吹奏楽部 グリークラブ 室内楽部 工芸部 歴史研究部 物理部 科学部 地学部 英語部 落語研究部 囲碁将棋部 鉄道研究会 JRC 軽音楽同好会 クイズ研究会 漢文素読会 新聞部 雑誌部 放送部 8mm制作委員会	英語研究部 数学研究(パソコン)部 化学部 生物部 物理部 地歴部 書道部 美術部 写真部 合唱部 吹奏楽部 演劇部 囲碁将棋部 漫画動画研究部 新聞委員会 放送委員会 模型同好会 釣同好会 映画研究同好会 格闘技観戦同好会 軽音楽同好会	英語部 映画視聴覚研究部 写真部 化学部 物理部 生物部 音楽部 古典ギター部 美術部 書道部 ラジオ部 郷土部 地学部 将棋部 軽音楽部 弦楽合奏部 新聞部 放送部 吹奏楽部 総合文化研究同好会	マンドリンギター部 美術部 書道部 写真部 情報処理部 演劇放送部 新聞文芸部 数学部 生物部 物理部 化学部 歴史部 英語部 囲碁将棋部 映画部 クイズ研究部 吹奏楽部	吹奏楽部 茶道部 ギター部 華道部 書道部 将棋部 写真部 インターアクト部 イラストアニメ部 コンピュータ部 美術工芸部 文学歴史を歩く会 家庭科部
27部	23部	21部	20部	17部	11部

は不明であるが、誰もが知っている有名な学校ほど魅力的な文化部が揃っているようだ。ここでは事実をお知らせするにとどめるが、各校の余裕や気風が伝わってくるようなデータではあるまいか。

四、現行規定での廃部は「ありえない」

近々行われる評議委員会において写真部の統廃合が議題に上ることは必至の情勢であるが、生徒会規約に「統廃合の条件となる部員ゼロの年数」が規定されていない以上、部活動の統廃合を軽々に行うべきではないと本紙は宣言する。ここ数年間、文化部は統廃合を繰り返してその数を減らしてきたが、「部活動をゼロから立ち上げられる、あるいは廃部から回復できる」規定が同規約にない限り、これ以上の文化部の減少を許すわけにはいかない。

昨今、世情はゆとり教育に対する反省を唱えはじめたが、これは部活動においても同様である。多くのスポーツがクラブチーム頼みになり、文化活動も選ばれたエリートがどこかで純粋培養される世の中となった。公立学校ならいざ知らず、せつかく学費を積んで入学した私学である。学生はそのサー

ビスがいままさに一つ減ろうとしている現状を再考しなければならない。いままでも眼前にあった、写真部という選択肢——五歳から一八歳という、人生においてもっとも感受性豊かな人々を預かる場所において、この喪失が後世にどれほどの影響を与えるだろうか。文部科学省は依然として部活動への干渉を避けるスタンスを貫いているようだが、私学の独自性、そしてほかならぬ川越東高校が学是とする「文武両道」の「文」がまた一つ失われることに際し、われわれは声を上げ続ける。

評議委員諸氏の賢察をあらためて望むとともに、読者諸君には川越東高校の将来について思いを馳せていただきたい。川越東高校写真部を通り過ぎていった数百人の悲願がここには宿っているのだ。

つひにゆく
道とはかねて
聞きしかど
きのうけふとは
思はざりしを

在原業平

▼川越東高校写真部 OB は、生徒会規約第5章第26条の正当かつ適正な運用を要求していきます▼みなさんの生徒手帳を見直してみてください。部員ゼロ=即廃部という規定はどこにもありません▼今年度評議委員会における賢明なご判断に期待します

川越東高校写真部

問い合わせ・見学・仮入部は担任、または伊藤先生まで。